

ざいらい きばな ばいすうたい
在来の黄花倍数体タンポポ
 ヤマザト・ケンサキ・クシバなど

とくちょう
特徴：①総苞外片は上向き ②花粉は大きく、形はバラバラ

山陰地方を中心に四国西部などには、総苞外片が上向きですが、花粉の大きさや形がバラバラになる倍数体タンポポがあります。頭花も大型でときには直径5cm以上にもなります。

ヤマザト、ケンサキ、クシバなどがありますが、オオクシバ(仮称)やロクアイ(仮称)など、正体不明のものも見つかっています。



ヤマザトタンポポ

やや大きい頭花で、色は淡い黄色が特徴。総苞外片に突起は目立たないが、へりは赤くなることが多く、毛も多い。



ケンサキタンポポ

ヤマザトに似ているが、総苞外片にははっきりとした角状突起がある。区別しにくい株もあるため、今回の調査ではヤマザトに含めている。

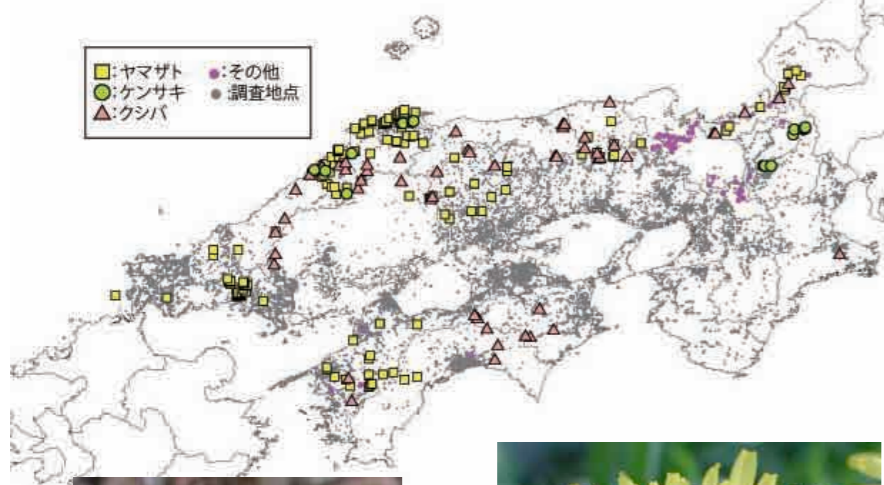


ヤマザトタンポポの花粉
 50μ以上の大きい花粉が多いが、10μ程度の小さい花粉が混じる。



クシバタンポポ

花びらは濃い黄色。卵形の総苞外片は全体の約1/2の長さで中央が隆起。総苞下部が膨らんで見える。



正体不明

トウカイに似るが、頭花は小さい



ロクアイタンポポ(仮称)

大きな頭花で、総苞外片は長く、隆起はない。わずかに角状突起がある

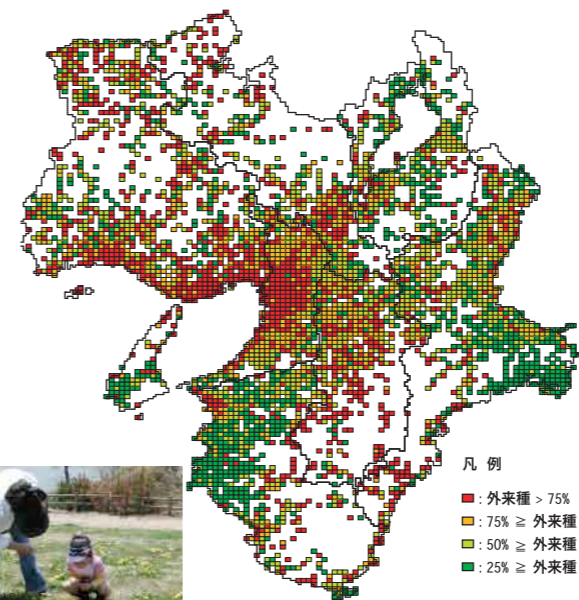


オオクシバタンポポ(仮称)

直径5cm以上の大きな頭花で、総苞外片の中央部がひれ状になる。

タンポポ調査・西日本2010

にしにほんのタンポポを調べよう



外来タンポポの割合(2005年)
 2×2kmメッシュ内で得られたタンポポのうち外来種(雑種を含む)の割合

春になると、街かどや田んぼで、タンポポの黄色の花が目立ってきます。綿毛を吹いたこともあるでしょう。

タンポポには、いろいろな種類があります。もともと日本にあった「在来種」と外国からやってきた「外来種」に大きく分かります。関西では、田んぼや畑には、在来のカンサイタンポポが、道ばたなどには、外来のセイヨウタンポポが多いといわれてきました。

2005年の「タンポポ調査・近畿2005」では、近畿7府県の参加者のみなさんから、見かけたタンポポの花を送ってもらい、地域ごとの外来タンポポの割合、種類ごとの分布、雑種タンポポの割合などを調べて来ました。

2010年は、5年間の変化を調べるとともに、西日本19府県に広げて、タンポポ調査を行います。

あたりまえのタンポポでも楽しい発見があるかもしれません。ひとつひとつが集まると大きな結果にもなります。この春はじっくりとタンポポとつきあってみませんか？

タンポポの頭花をよく見ましょう



緑色の「総苞」では、外側の「外片」に「角状突起」が目立つこともあります。



1つの花のように見える「頭花」は、たくさんの「小花」の集まりです。



一つの「小花」には、花弁、雌しべ、雄しべ、冠毛、子房があります。

総苞外片の反り返りの程度

タンポポの種類を知るには大切な形です。よく開いた花で見ましょう。

